

<<< JARL 信越地方本部 コンテスト委員会より >>>

今年もJA0-OSOならびにVHFコンテストにご参加いただき、ありがとうございました。
委員会一同感謝申し上げます。

当コンテスト委員会ではこの2つのコンテストに関し、毎年の開催に向けて、広報、ログの集計および審査、結果発表、表彰ならびに参加証の発行、翌年に向けてのルールの見直し等の業務を行っております。皆様からのご意見をもとに結構多岐に亘る内容を、委員各位協力して担当しております。

両コンテストを通じ、毎年言われていることは「参加局数が少ない」とのご意見です。ご存知のとおり、近年のアマチュア局数の減少はあらためて申し上げるまでもありません。ご参考までに、JARL主催のQSOパーティーの書類提出局数の推移を図1に示します。ここ10年で3分の1近くにまで減少していることがわかります。多くの局が参加されているQSOパーティーの局数推移は、現状を如実に表していると言えるでしょう。

それに対し、両コンテストでの書類提出局数は2001年以降は微減に留まっています(図2、図3)、ひとえにコンテストに対する皆様方のご理解ご協力の賜物と思います。ただし裏を返せば、参加局の固定化、内容のマンネリ化という問題も潜んでいるとも言えます。

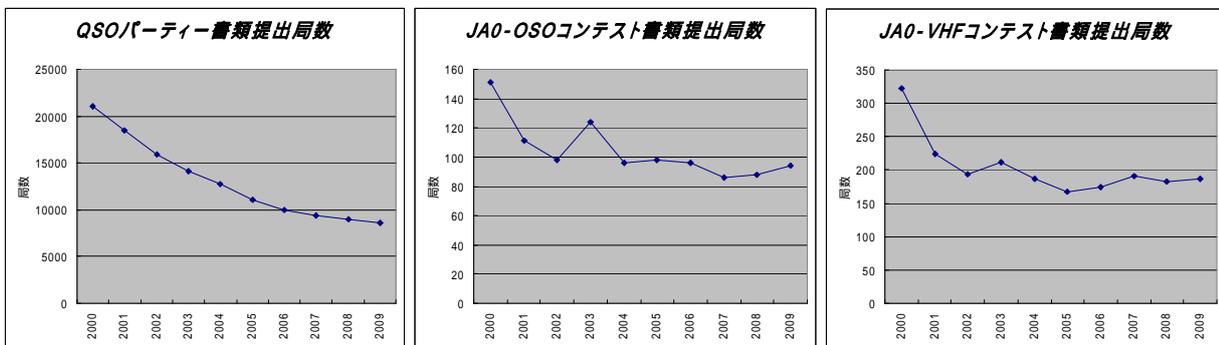


図1 QSOパーティー参加局

図2 OSOコンテスト参加局

図3 VHFコンテスト参加局

そういった問題の解決のため、コンテスト委員会では一時期、積極的な規約の見直しを行いアナウンスしてまいりました。好評をいただいたアイデアもあれば、反対され元に戻した内容もありました。これらの規約変更は、総合的には一定の効果がみられたとし、あまり頻繁な変更も好ましくないとの意見から、昨年以來大筋での変更を行わず、3年に一度程度の変更を行っていくような方向としております。来年も大きな変更は行わない予定です。皆様からのご意見は常に承り、検討課題とさせていただきます。引き続きご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

コンテスト参加局を増やすためには、まず普段からのアクティビティーを上げること、ともに声を掛け合ってアマチュア無線を楽しむ人を増やすこと(減らさないこと?)から始めたいと思います。

当委員会が考える、コンテストに対する2つの大きな基本的考え方

1. コンテストは電波を発射する「機会」(opportunity)である

普段電波を出すことが少なくなった局も、このときは無線機の電源を入れ、設備の点検がてら交信しましょう、というキッカケであるべきと考えています。コンテストは開催される日時、周波数等が決まっているのですから、通常よりも空振りは少ないでしょう。がんばっている局への「お声がけ」も喜ばれるでしょう。久しぶりの局と会えるかもしれません。すべては「機会」であり、コンテストの開催はその機会の提供である、と考えています。ですから、コンテスト委員会では1局でも多くの方が参加されることを望んでおり、同様に参加される皆様もそう感じておられると思います。参加局数が少ない今こそ、コンテストの存在意義が大きく問われるものになっています。規約の見直しなどによって、より参加しやすく、ともに楽しめるコンテストを目指しております。

2. コンテストはスポーツであり「競技」(competition)である

電波法上でのアマチュア業務には「競い合って互いをより高める」といった表現はありませんが、競技形式をとることによって訓練、研究の成果をより高め、その度合いによって表彰し名誉を与えるという手法をとっているもの、と考えることができます。スポーツである以上、スポーツマン精神が求められ、そこに不正や疑念が生じてはならないのは当然です。コンテスト委員会は皆さんから提出された書類を審査することによって、その競技の「審判員」を任されているわけですから、皆様の信頼を得た上での業務であるべきと考えます。また一方、通常のスポーツと異なり、選手(参加局)は各自の運用地にてそれぞれ運用されるため、実際の判断は提出された書類によるところがほとんどとなります。サマリーシートの誓約文について自署もしくは押印が必要なのは、それだけ「自己申告」の重要性が高いものであるということです。短い文章ですが今一度、誓約文を熟読ください。委員会としても、提出いただいた内容を信頼し審査しております。参加局同士、また皆様とコンテスト委員会との間の「信頼関係」が、コンテストの成立そのもののための大切な要素と言えるでしょう。

これら2つの考え方を踏まえた上で、皆様から寄せられているご意見について、コンテスト委員会の見解をお伝えいたします。

・コンテスト中の他バンドへのQSYリクエストについて、他

基本的に、多くの方と多くのバンドで多くの交信ができるように、と考えております。競技としての不公平感が残りますが、交信相手が限られている現状では「交信局数の増加」を優先すべきと考え、特にルール化(10分間ルール等)は設けないことといたします。(ただし、呼ぼうと思っていた局がQSYしてしまって交信できなかった、という苦情のコメントもあります。ご配慮ください。)同様に、ローカル局への交信依頼なども、これを機会に電波を出すことになれば(現状では)コンテストのアクティビティー向上とみなすべきと考えます。その際は折角ですので、より多くの局と交信されることを希望いたします。また審査の都合上、1交信であってもぜひ書類の提出をお願いいたします。お互いに、コンテスト結果という「記録を後世に残す」(大袈裟?)ことを意識していただければと思います。

・開催時期について

毎年天候が悪いとか、まだ雪が残っていると、花見や田植えの時期とか、定番(！?)のご意見をいただきます。こればかりはそう簡単に変更できないものであり、コンテスト委員会も頭が痛いところです。先のアマチュア局減少の話と相反し、実はローカルコンテストの開催数は続々増加しています。週末は時間刻みで検討しないと空き時間(空き周波数ではない)がありません。信越だけでも両コンテストの他に各県支部で開催されるコンテスト、パーティーがあります。それぞれに特徴があり、どれでも良いというわけにはいきませんが、皆様のご都合のつく限りでのご参加をお願いいたします。

・コンテスト中の運用地変更について

O S Oコンテストでは2007年より参加途中での運用地の変更を認めることとしております。ただし、V H Fコンテストについては、その競技性を維持するために従来どおり運用地変更不可といたします。

・コンテストナンバーの連番について

O S Oコンテストでは(詳細は省略いたしますが)審査の確実性を期すために、社団局も全バンド通しての一連番号としています。ご理解のほどお願いいたします。V H Fコンテストでは「連番は不要では」というご意見もいただいております。今後の検討課題といたします。

・J A R L非会員局の参加について

現状では、交信賞や参加証等はお渡しできませんが、順位には入りますし、表彰対象ともなります。ローカル局お誘い合わせの上、ぜひ一緒にご参加くださいますようお願いいたします。

・電子ログについて

O S Oコンテストは他の一般的なコンテストと規約が異なり、通常のコテストログではなく一般的な交信用のログを流用して提出いただいております。今回より試験的に電子ログを受け付けましたが、結果的にはコンテスト委員会側でプリントアウトして紙で審査しているというのが現状です。郵送分も含めP Cで打ち込んだログは手書きログよりも審査がしやすい?ということで、その点有難いということがありました。ただし、手書きからの写し違い等に十分ご注意いただき、お送りいただく前にぜひ再度確認をお願いいたします。

(書類提出アドレスでの転送容量の関係で、多くの局にメール再送をお願いいたしました。ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。)

なお、V H Fコンテストにつきましては、一般的な電子ログ形式(「JARL形式」といわれるもの)での送付をお願いしております。ご協力をお願いいたします。

コンテスト委員会のサイトで書類の見本がダウンロードできるようになっておりますが、使いにくいのご指摘がございます。こちらでも検討しておりますが、どなたかF Bなものを作成していただけるとたいへん助かります。ご協力いただけないでしょうか?

・電源係数について、ハンディー機部門について（OSO）

非常通信を想定したコンテストですので、ぜひ検討させてください。

・得点の減点について（OSO）

OSOコンテストでは、提出いただきました書類を詳細にチェックし、細かい減点を行っております。順位表をご覧くださいればわかりますが、何らかの減点がされている局がほとんどです。まずは相手局の書類が提出されていないだけで5点減点になりますが、その他にも1点刻みで減点がなされています。ご自分の減点内容についてのご質問を承りますので、必要な方はご連絡ください。書類提出無き場合は相手局が減点される規約になっておりますので、お忘れなく提出をお願いいたします。書類提出までがコンテストです。

・得点の計算方法について（VHF）

2006年より、得点の計算方法を「交信局数+（このコンテストのための特設）地域数×10」から、一般的な「交信局数×マルチ（市郡区、都府県支庁）」に変更しております。計算方法を間違える局が多いこと、参加のしやすさなどからの変更です。以前の方法に戻したらどうかとのご意見もいただいておりますが、参加局数の少なさや不公平さへの根本的な解決にはならないと思われまます。（現状で計算方法のみ変更しても、順位の大勢に変化はありません。）地域別入賞の新設など、違った切り口からのアイデアもあります。ご意見お寄せください。

・管外局からのご意見について（VHF）

管外局同士の交信を有効にする、モードはSSBを推奨等のご意見をいただきました。両コンテストとも元々は信越管内のみで行われていたものであり、コンテスト活性化の一環としてVHFコンテストで管外局部門を設置した経緯があります。基本的には従来のやり方を継承していくものであり、一部で行われている「管内局との交信3点、管外同士1点」という規約は馴染まないと考えております。モードも144MHz以上はFMの運用が中心となっている信越管内では自然なことでありますが（FMでこれだけアクティブなコンテストが開催できるのは幸せなエリアです！）管外局との交信で点を伸ばそうという局はぜひSSBやCWでの交信にもチャレンジしていただきたいと思ひます。モードが異なった場合に得点加算することも、今後検討課題としたいと思ひます。管外局の参加は年々増加傾向にあります。管内の皆様からもよりアクティブにご参加いただき、さらにコンテストを盛り上げていただきますようお願いいたします。

以上です。この後各県主催のパーティー等も開催されます。規約をご確認いただき、また各局お誘い合わせの上、より多くの皆様にご参加いただきたく、重ねてお願いいたします。

また、コンテスト委員会では、私たちとともにコンテスト運営にご協力していただける委員を募集しています。興味のある方はぜひご連絡ください。

2009年6月26日

文責：JROBAQ / 西山 浩平（信越コンテスト委員長）